



黑色暗々たる此の怪人を何と見らるゝや

明るき地上の工事のみが顧みられて、斯る暗黒、狹隘、濕潤の不安な大地の奥で作業する人達は餘りに世人から忘れられてをる。

人類文化の先驅は斯かる犠牲的な技術者の實行から第一歩を進めてをるのである。隧道坑内の作業は一ミして困難ならざるはないが、其測量の如きは最も嚴密を要するものにして然も作業の意想外に困難なるは局外者の想像出来ないものである。

圖は坑内の高低測量中にして、左の白斑ある柱は支保工に水苔の反射せるもの上部に横はれるも然り、測量員は斯かる狭き坑内にて豪雨の如くに落下する湧水の中に防水服を着して作業せるも尚ほ水は肌に徹する位なり。

導坑の掘鑿と爆破作業の如きも到底寫眞に紹介する事の出来ない程困難なるものである。坑内の湧水は導坑爆破後非常に増加する事がある。今西口底設導坑六千三百十二呎地點湧水狀況を見るに

大正十三年十一月三日	西口排水總量	四十個
同	四日	三十四個
同	五日	二十九個

に漸減してをるが掘鑿進行につれて又々何時増加するも知れない。隧道工事に於て湧水の大なる程、一大困難は他にないのである。